

世界に誇れる、ものづくり

2024年12月期第3四半期

決算説明資料

湖北工業株式会社

2024年11月8日

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです。

目次

I.	2024年12月期3Q 決算概況 2024年12月期 業績見通し	P. 2
II.	2024年12月期3Q セグメント別の状況	P. 13
III.	参考資料	P. 32



**I. 2024年12月期3Q 決算概況
2024年12月期 業績見通し**

2024年12月期(3Q累計)のハイライト

- ・ 2Qに続いて3Qも回復傾向が続いたが、引き続き回復力は弱い状態。4Qは一時的な調整へ
- ・ リード端子事業は自動車市場向けの需要が停滞している模様、4Qは再度調整へ
- ・ 光部品・デバイス事業は、在庫調整の一巡と海底ケーブル市場における投資再開により3Qまで計画比上振れ、4Qは一部顧客について反動減が想定されるが、2025年に向けて引き合いは好調

● 事業環境

- ・ 自動車用エレクトロニクス市場では、環境対応車の普及、ADASに代表される高機能化の進展がみられたが、自動車生産全体としては欧州などで低迷が続きアルミ電解コンデンサは再度調整へ。ハイブリッドコンデンサの増産計画も延期が目立つ状況
- ・ 情報通信機器市場などは、企業におけるIT需要の回復等により調整局面からプラス成長への転換がみられたが、回復力は弱い
- ・ 海底ケーブル市場向けは、新規海底ケーブルプロジェクトの発表等により、2025年後半に向けて引き合いが活発化

● 業績（3Q累計）

- ・ 売上は前年同期比17.2%（1,782百万円）の増収、計画を0.8%（101百万円）上回った
- ・ 営業利益は前年同期比38.3%（879百万円）の増益、計画を5.5%（165百万円）上回った

損益計算書(3Q累計)の概要

主力2事業ともに底打ちから大きく回復し、前年同期比17.2%の増収、同38.3%の営業増益

(単位：百万円)

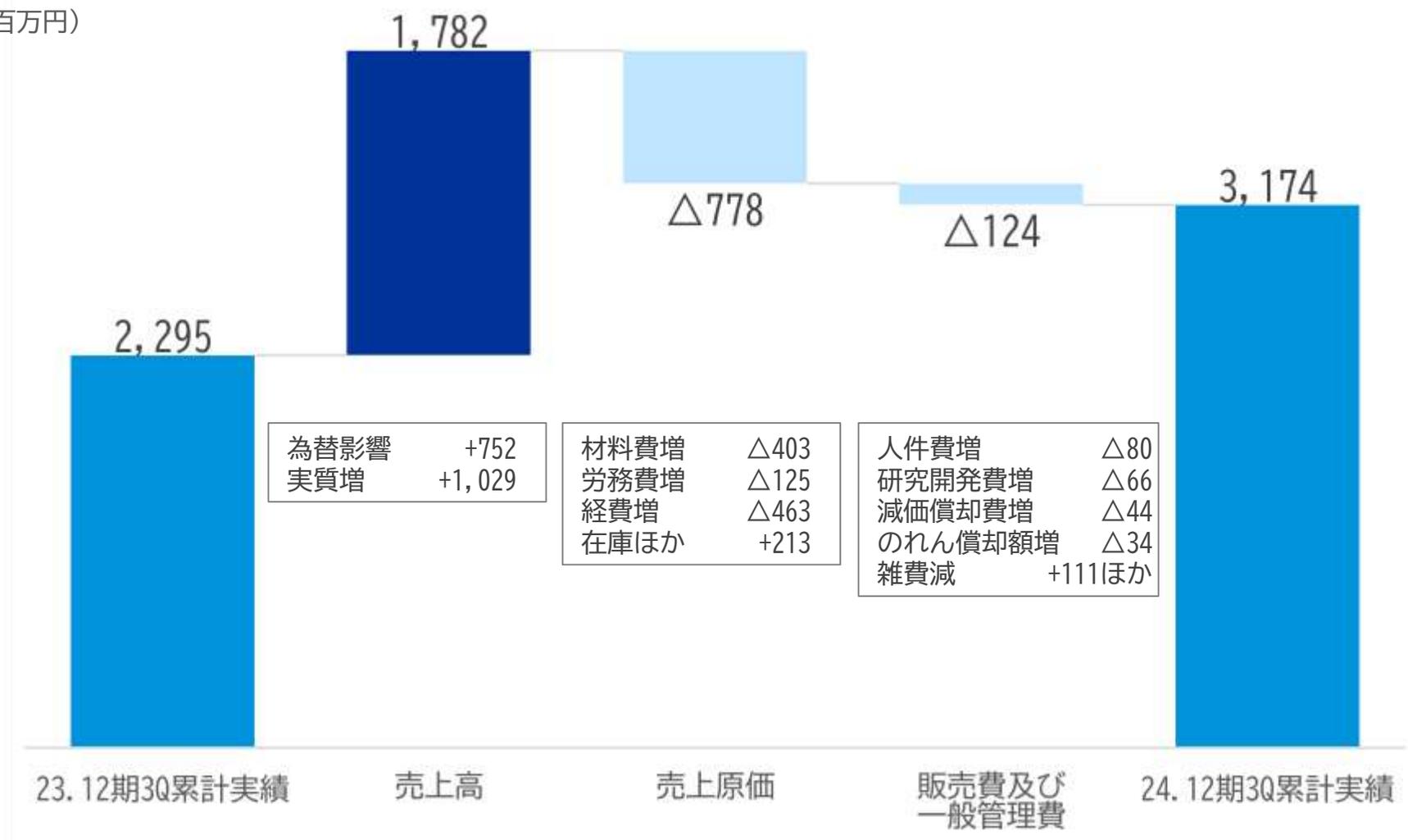
	2023.12期	2024.12期			2024.12期				
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	前年同期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比	
売上高	10,355	12,137	+1,782	+17.2%	3,413	4,294	4,430	+135	+3.2%
リード端子事業	5,580	6,285	+704	+12.6%	1,929	2,157	2,198	+41	+1.9%
光部品・デバイス事業	4,774	5,852	+1,078	+22.6%	1,484	2,136	2,231	+94	+4.4%
営業利益	2,295	3,174	+879	+38.3%	635	1,152	1,385	+232	+20.2%
営業利益率	22.2%	26.2%	+4.0pt	—	18.6%	26.8%	31.3%	+4.4pt	—
リード端子事業	61	296	+234	+382.6%	△13	132	177	+44	+33.6%
光部品・デバイス事業	2,233	2,878	+644	+28.8%	649	1,020	1,208	+188	+18.5%
経常利益	2,973	3,326	+353	+11.9%	1,130	1,622	572	△1,050	△64.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,723	2,224	+500	+29.1%	724	1,066	433	△633	△59.4%
為替レート (期中平均)	138.24円/\$	151.45円/\$			148.62円/\$	155.86円/\$	149.69円/\$		

- ・ 3Qの売上、営業利益は修正計画を上回って推移
- ・ 経常利益、四半期純利益は、円高により営業外損益が悪化し、計画比下振れ

営業利益(3Q累計)の増減要因 (前年同期比)

売上の大幅増が材料費などのコスト増を吸収、前年同期比38.3%増と大幅増益

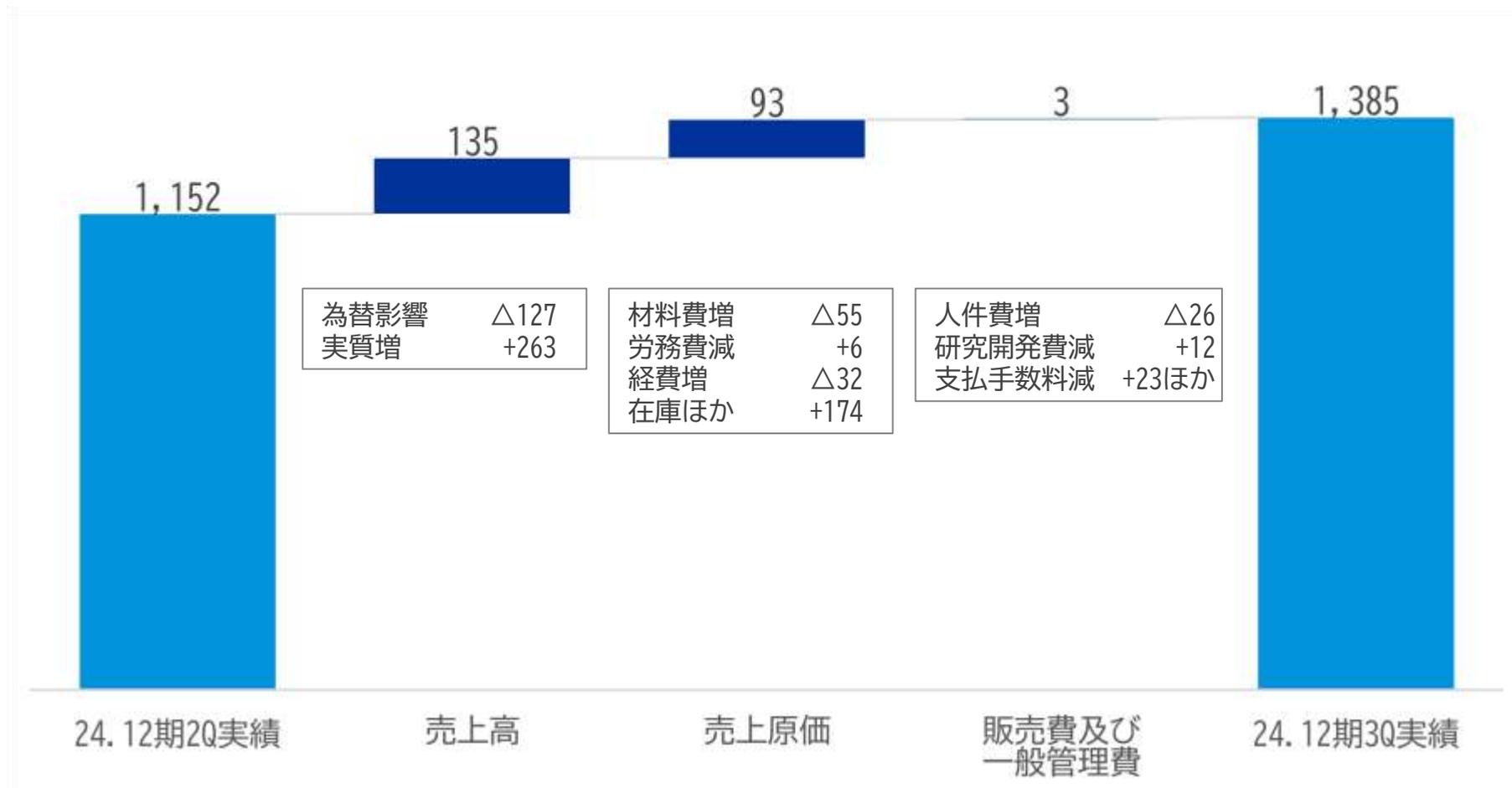
(百万円)



営業利益3Q(7~9月)の増減要因 (前四半期比)

売上増加に加えて在庫の積み上げもあり、前四半期比20.2%増となった

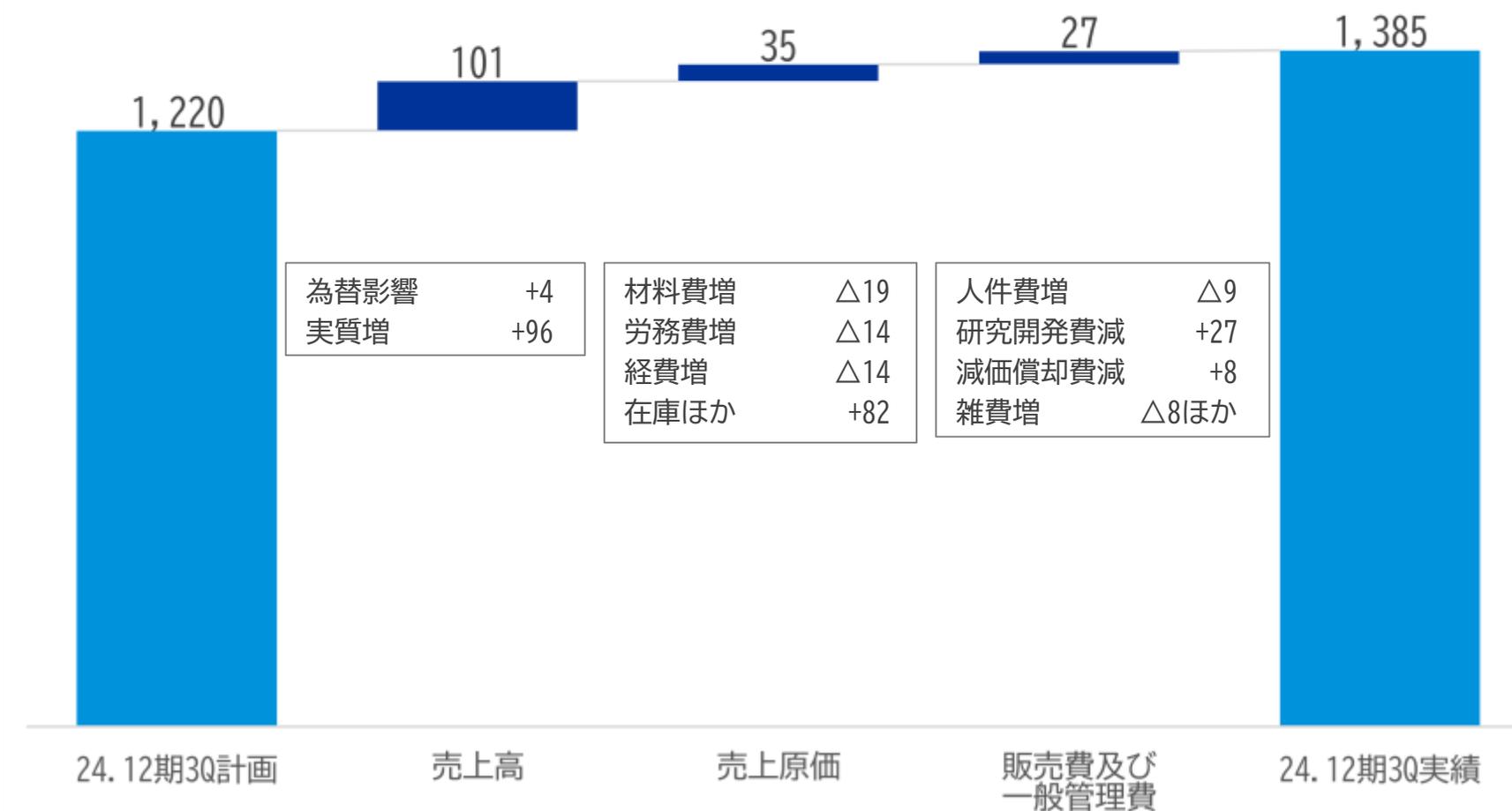
(百万円)



営業利益3Q(7~9月)の増減要因 (計画比)

売上の増加とコスト削減により、3Q(7~9月)の営業利益は計画比13.5%増

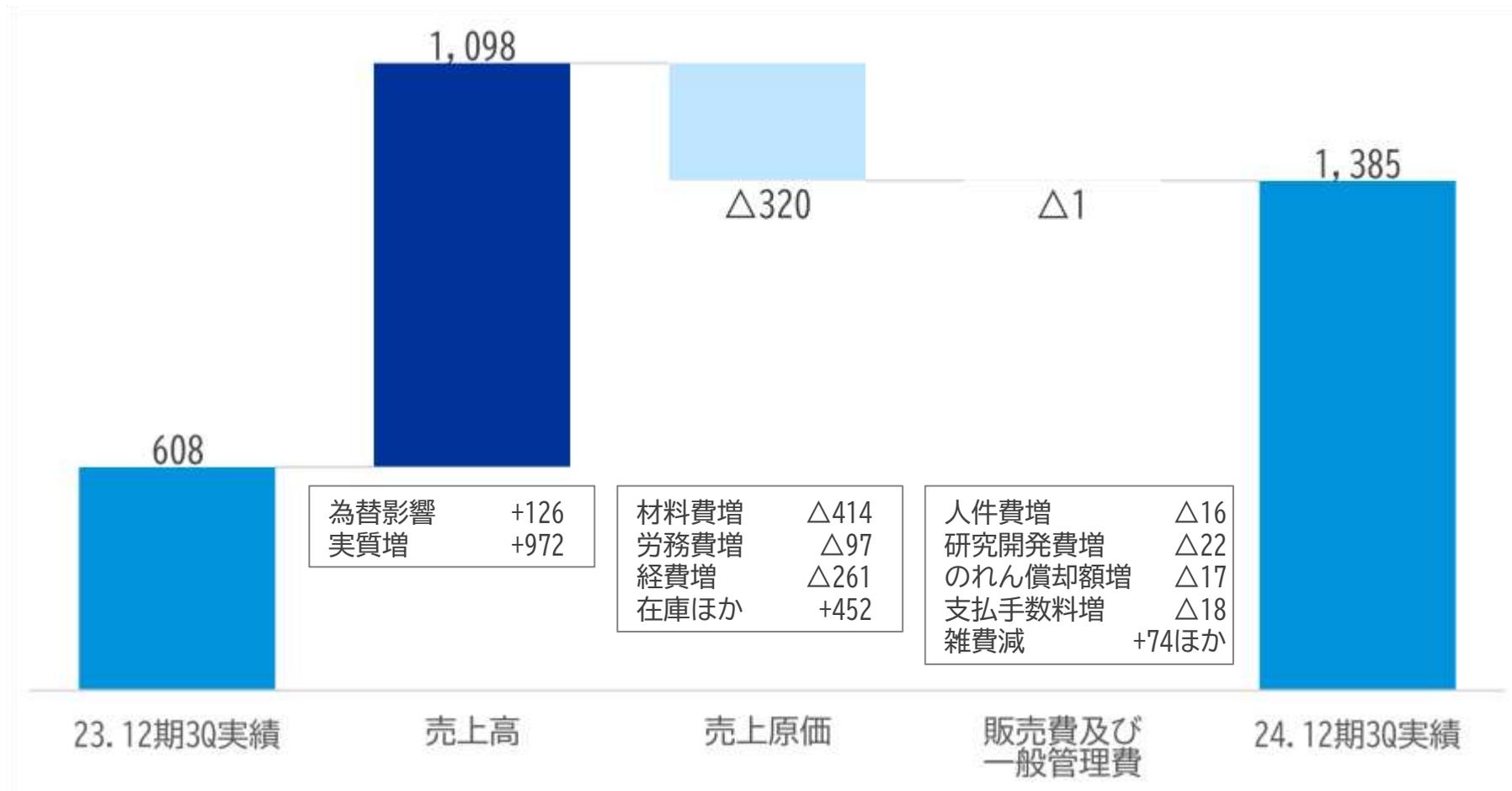
(百万円)



営業利益3Q(7~9月)の増減要因 (前年同期比)

売上が前年比33.0%増加、材料費などコスト増を吸収し、営業利益は前年同期比127.6%増

(百万円)



貸借対照表 (3Q)

(単位：百万円)

貸借対照表	23.12期末	24.12期3Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	16,735	17,982	+1,247	売掛金+979、原材料及び貯蔵品+237、ほか
固定資産	8,237	8,872	+635	機械装置及び運搬具+98、のれん+308、無形固定資産その他+156、ほか
資産合計	24,973	26,855	+1,882	
流動負債	2,522	2,758	+235	買掛金+278、未払法人税等+257、賞与引当金+185、一年内返済予定の長期借入金△246、短期借入金△196、ほか
固定負債	2,391	2,189	△201	長期借入金△208、ほか
負債合計	4,913	4,948	+34	
純資産合計	20,059	21,907	+1,848	利益剰余金+1,684、為替換算調整勘定+192、ほか
負債・純資産合計	24,973	26,855	+1,882	

2024年12月期業績の見通し

2024年8月時点の見通しから変更なし。3Q売上は計画比上振れしたが4Qは反動減となる見通し

(単位：百万円)

<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2023年12月期	2024年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	修正予想の前期実績比	
売上高	13,472	14,536	16,376	+2,904	+21.6%
リード端子事業	7,400	7,868	8,456	+1,055	+14.3%
光部品・デバイス事業	6,071	6,667	7,920	+1,848	+30.4%
営業利益	2,812	3,243	4,098	+1,286	+45.7%
営業利益率	20.9%	22.3%	25.0%	+4.1pt	—
リード端子事業	44	257	272	+228	+508.4%
光部品・デバイス事業	2,767	2,986	3,825	+1,058	+38.2%
経常利益	3,152	3,284	4,637	+1,484	+47.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,904	2,136	3,045	+1,141	+60.0%
1株当たり当期純利益（円）	* 70.55	79.17	112.8		
為替レート（期中平均）	140.66円/\$	140.00円/\$	150.00円/\$	※為替レート予想（150円）は下期の前提レートです	

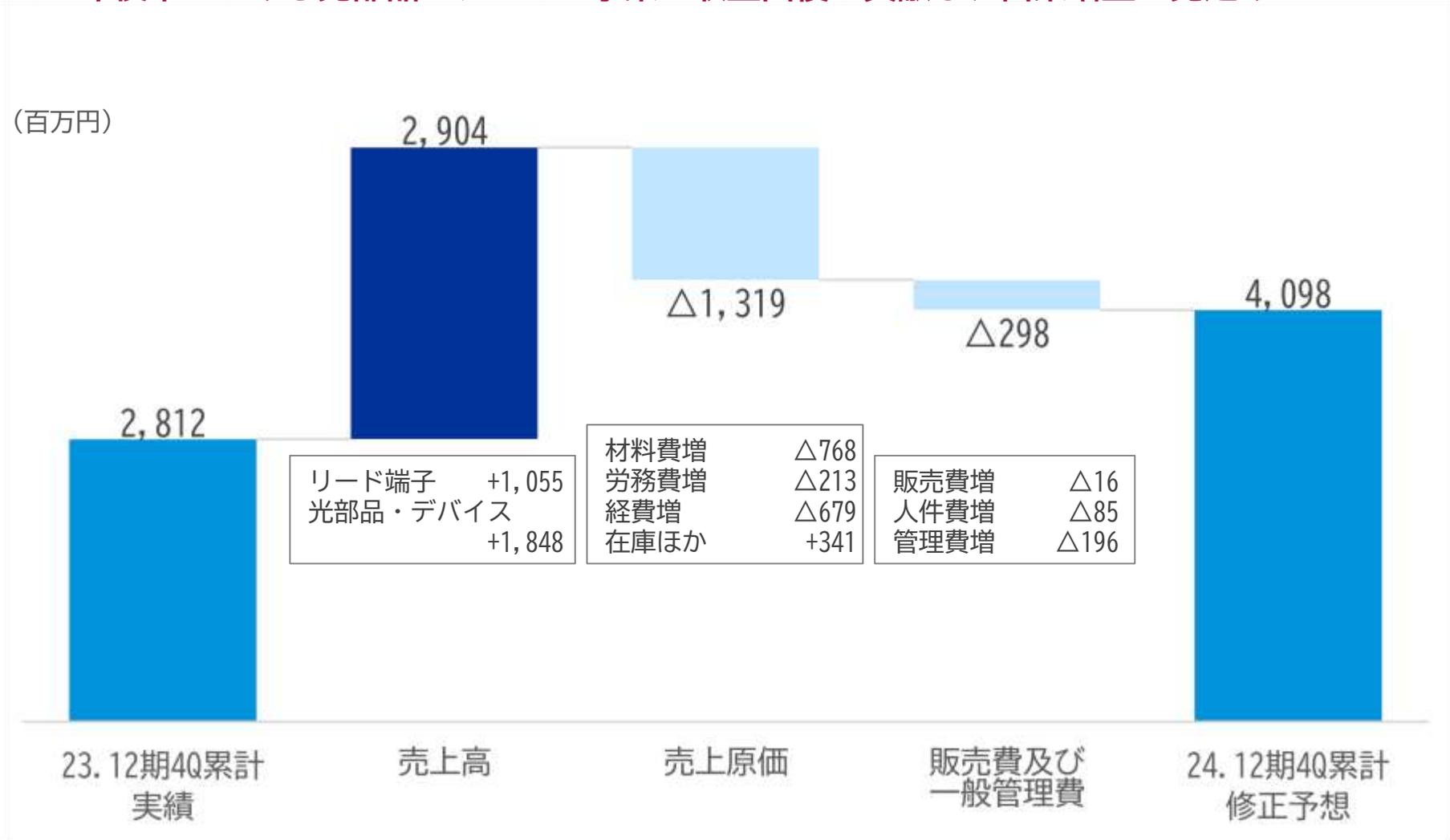
*2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、2023年12月期については当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

● 現時点の状況と今後の見通し

- ・ リード端子事業：3Q売上は若干上振れたが夏以降から市場環境は悪化傾向。営業利益は販管費削減により計画比改善
- ・ 光部品・デバイス事業：3Qまでの上振れの反動で、4Q売上は減少の見通し

2024年12月期業績(営業利益)の見通し

2024年後半における光部品・デバイス事業の収益回復が貢献し、営業増益の見込み



設備投資・減価償却・研究開発(3Q累計)

研究開発費はおおむね期初計画どおりの進捗

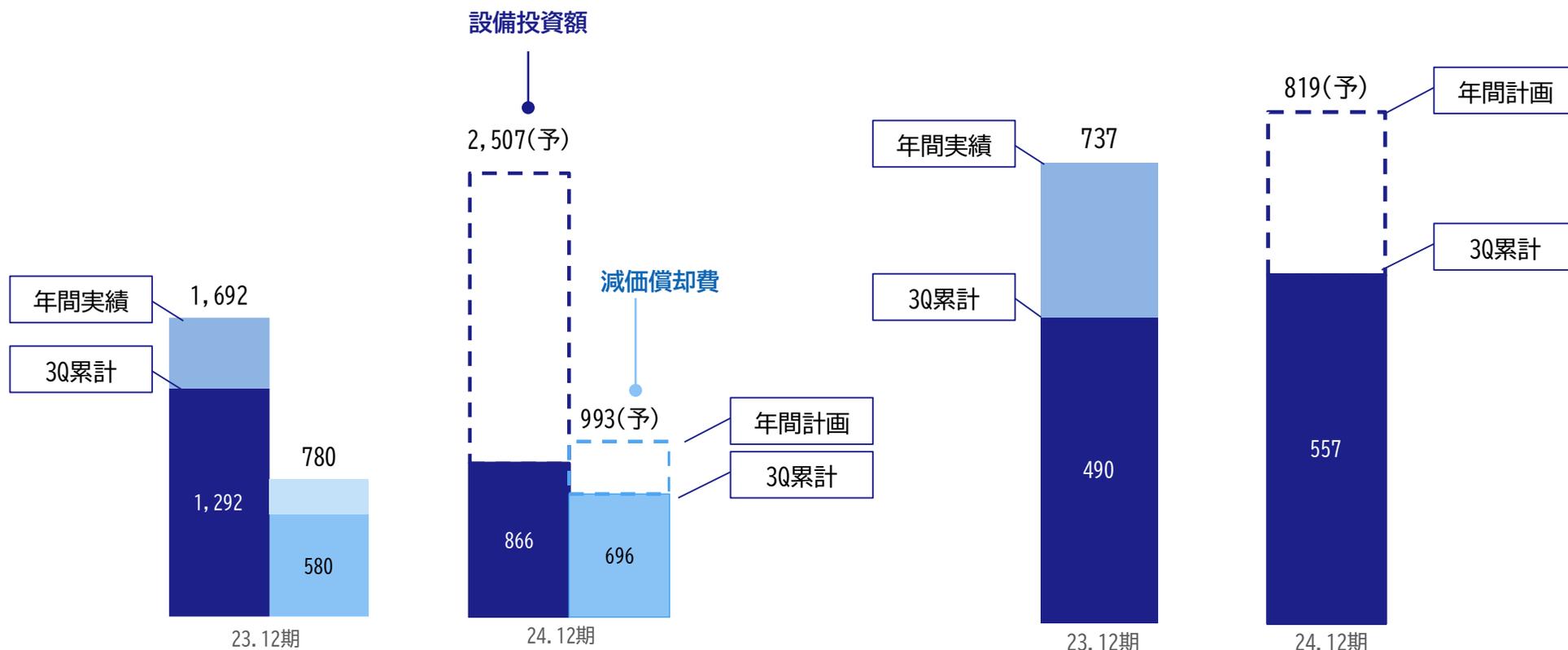
設備投資は、光部品・デバイス事業の投資が後ズレ。4Qは米原駅前の土地取得（約6億円）の予定

設備投資・減価償却費（百万円）

研究開発費（百万円）

■ 4Q実績
■ 3Q累計実績

■ 4Q実績
■ 3Q累計実績



Ⅱ. 2024年12月期3Q セグメント別の状況

セグメント別業績(3Q累計) - リード端子

不採算製品の価格是正や生産効率改善策などにより、3Q(7~9月)の利益率が改善

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期		2024年12月期					
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	前年同期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比	
売上高	5,580	6,285	+704	+12.6%	1,929	2,157	2,198	+41	+1.9%
営業利益	61	296	+234	+382.6%	△13	132	177	+44	+33.6%
営業利益率	1.1%	4.7%	+3.6pt	—	△0.7%	6.2%	8.1%	+1.9pt	—

2024年12月期(3Q累計)の概況

- **売上は低成長が続くが、収益は回復傾向。収益改善策の成果が出始めた**
 - 市場全体としては底打ち後の回復が弱い状況が続く。車載市場向けも欧州・ASEANを中心に調整
 - 情報通信機器市場向けは生成AI関連需要をはじめ堅調に推移
- **当社の状況と収益改善への取り組み**
 - 前半に発生した生産のミスマッチは解消。在庫積み増し効果もあり、営業利益率は改善傾向
 - 新製品売上増、価格是正等収益改善策が成果として顕在化してきた

2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

1. お客様、市場調査会社等からの情報に基づく当社の認識

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/8時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
(1) アルミ電解コンデンサ市場全体 （主に日系顧客の状況）	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 在庫調整は春までに終了し、その後回復の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 産機全体、車載、ICTの一部で在庫調整が続き、当面回復力は弱い状況が継続と予測 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 市場は、第3四半期までの緩やかな回復から再び調整局面入り。年内は調整、2025年は回復に向かう見通し
(2) 用途別の動向	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 自動車市場、期初時点で在庫調整はほぼ終了。春以降の回復を見込む ➢ 自動車用はハイブリッドコンデンサ向けリード端子の売上は前年比3倍を見込む ➢ ICT市場、生成AI市場の牽引などにより、年後半、回復に向かう見通し ➢ その他情報通信機器、民生市場向けは在庫調整からの回復を見込むが、需要は低迷が続く予想 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 徐々に回復すると期待するが、一部在庫調整や景気要因により大きな回復は難しい ➢ 日系・非日系顧客共に増産だが顧客によりバラツキあり ➢ 情報通信機器市場向けは生成AIの普及などを背景に堅調に推移すると予想 ➢ 情報通信機器市場の回復継続を期待するが、マクロ要因により本格回復は期待できない 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ASEAN・欧州車載市場向けの低迷により調整局面。2025年には回復の見通し ➢ 日系コンデンサメーカー各社のハイブリッドコンデンサ増産計画に遅れ。一部非日系メーカーは増産継続 ➢ 生成AIの普及、データセンター投資の活発化によりPC等が堅調に推移 ➢ 欧州・中国の産業機器向けが厳しい状況

2024年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

2. 当社の経営環境

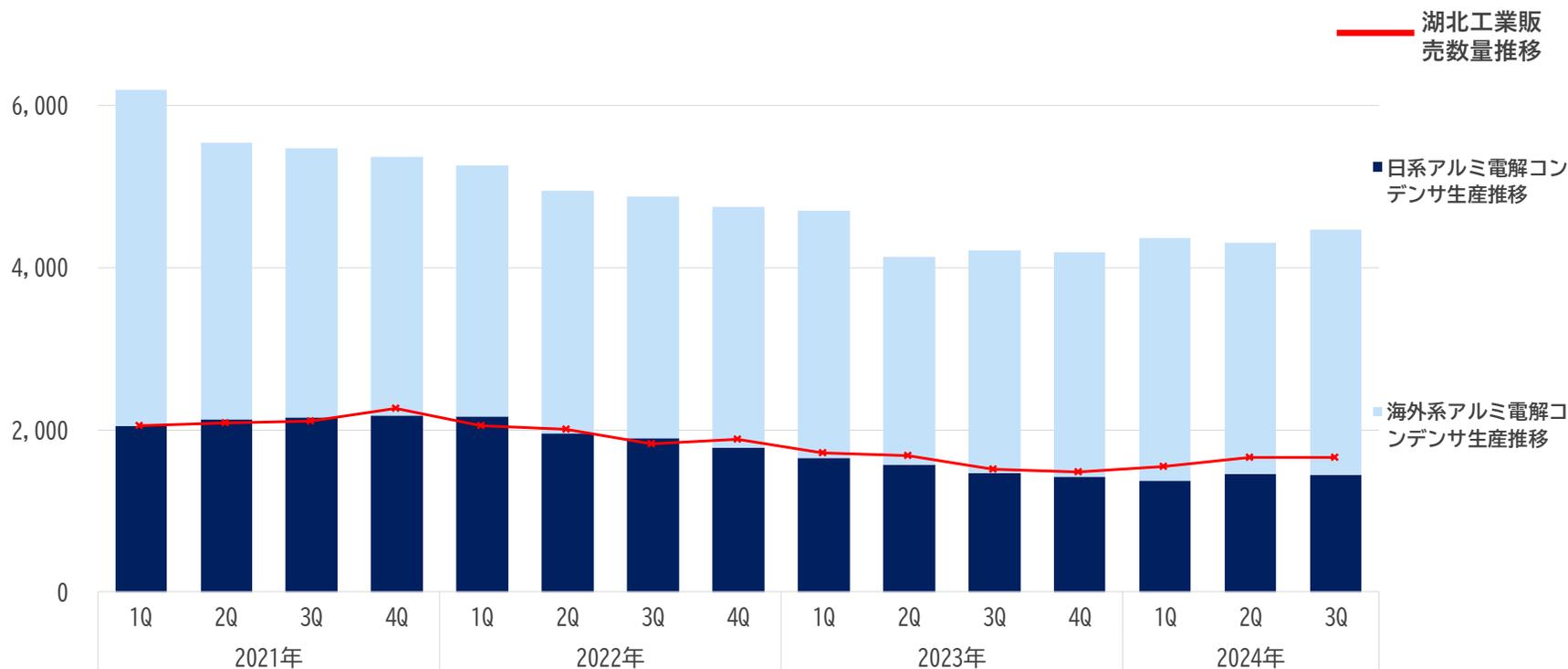
	2024/12期予想（当初コメント）	2024/8時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し															
(1) 成長分野	<p>➢ 高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想</p> <p>(億円)</p> <table border="1"> <caption>高機能コンデンサ向けリード端子の売上予想 (億円)</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>液体コンデンサ</th> <th>電気二重層キャパシタ</th> <th>ハイブリッドタイプ</th> <th>固体コンデンサ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2023</td> <td>4.0</td> <td>2.0</td> <td>1.0</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>2024(予)</td> <td>4.5</td> <td>3.0</td> <td>2.0</td> <td>5.5</td> </tr> </tbody> </table>	年	液体コンデンサ	電気二重層キャパシタ	ハイブリッドタイプ	固体コンデンサ	2023	4.0	2.0	1.0	0.5	2024(予)	4.5	3.0	2.0	5.5	<p>➢ EDLCは、車載・スマートメーター向けに引き続きグローバルで増加</p> <p>➢ 日系顧客等のグローバル生産に対応</p>	<p>➢ 中国不動産市場の低迷等によりEDLC向け成長は一部減速の見通し</p> <p>➢ 非日系コンデンサメーカー各社が車載市場向けへの取り組み強化</p>
年	液体コンデンサ	電気二重層キャパシタ	ハイブリッドタイプ	固体コンデンサ														
2023	4.0	2.0	1.0	0.5														
2024(予)	4.5	3.0	2.0	5.5														
(2) 生産	<p>➢ 蘇州、東莞、マレーシア各拠点での生産効率改善による収益力強化、品質改善を進める</p> <p>➢ OEE 85%目標</p>	<p>➢ 本社工場の少量生産品種を海外工場に集約、まとめ生産へ</p> <p>➢ 東莞工場での生産体制を増強。25年に向けて収益体制強化に取り組む</p> <p>➢ 生産設備の進化により今期中に85%目標達成を目指す</p>	<p>➢ 海外移転、生産再編を順次進行中</p> <p>➢ 東莞工場での生産を増強 湖北グループ最大生産規模へ</p> <p>➢ 不良率削減に重点を置き設備改善によるOEE向上に取り組み中</p>															
(3) 技術	<p>➢ OEE 85%目標</p> <p>➢ レーザー溶接製品サンプル出荷開始</p>	<p>➢ 量産用レーザー溶接機の開発・テスト</p> <p>➢ 2024年度中にサンプル出荷目標</p>	<p>➢ レーザー溶接技術の開発は順調 4Qにサンプル出荷開始を予定</p> <p>➢ 2025年EDLC用高機能コンデンサからの採用開始を目標に開発中</p>															

2024年12月期(3Q)の事業環境

市場動向は厳しい状況が続く

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移

(百万個)
8,000



※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示
 ※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

リード端子事業の見通し

2Q発表時の予想から変更なし

3Q実績は、売上は計画比上振れ、利益も想定以上の改善。4Q売上は3Q比若干減少の見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期 (通期)			修正予想の前期実績比
	実績	当初予想	修正予想 (8月)		
売上高	7,400	7,868	8,456	+1,055	+14.3%
営業利益	44	257	272	+228	+508.4%
営業利益率	0.6%	3.3%	3.2%	+2.6pt	—

2024年12月期3Qの状況及び現時点での見通し

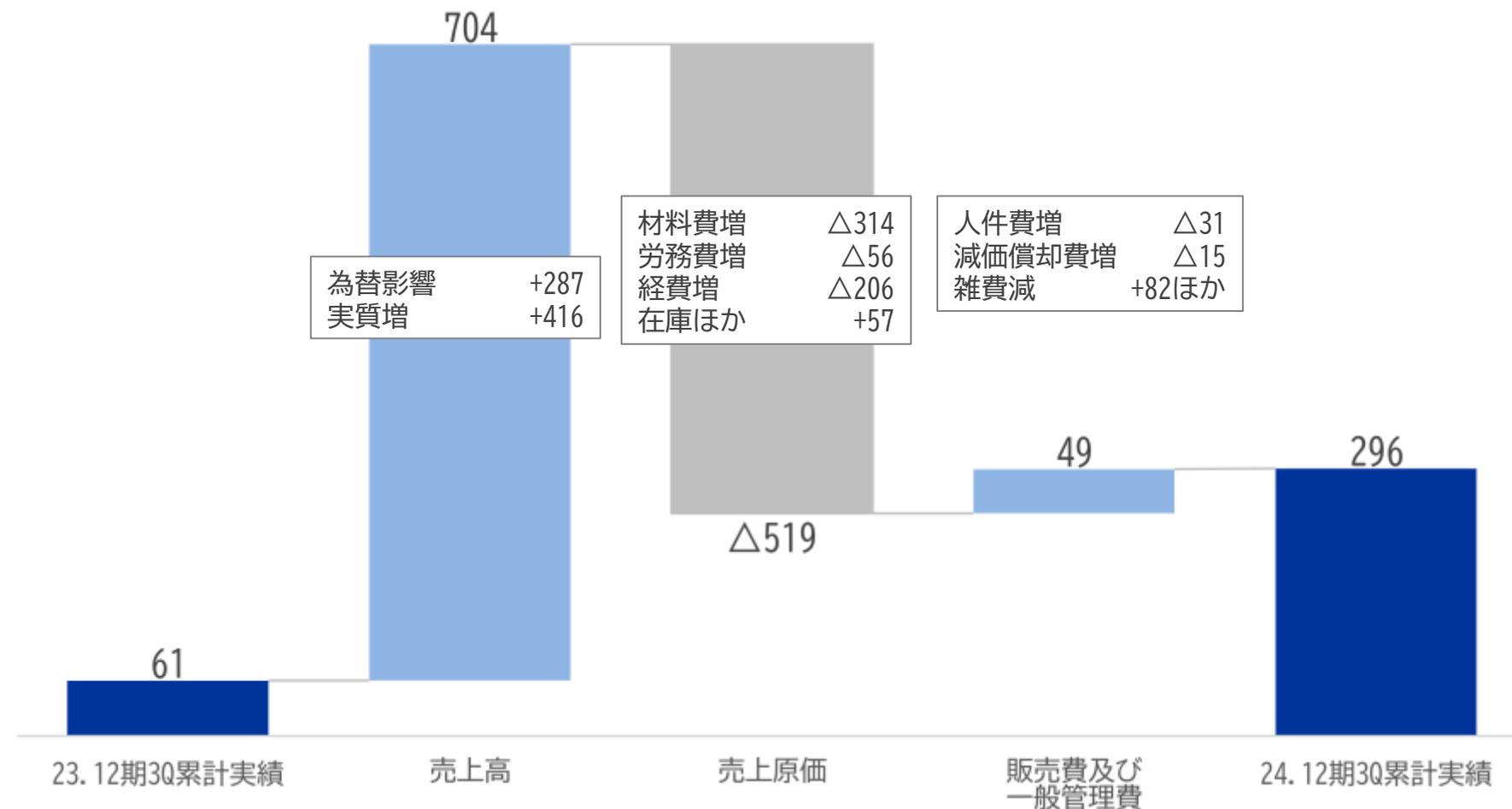
- 3Qはほぼ計画通りの売上だが、引き続き欧州の車載メーカーが調整局面、市場の回復は2025年にずれ込む見通し
- 4Q売上は車載市場の低迷などにより3Qの売上より悪化の見通し

セグメント別

営業利益(3Q累計)の増減要因(前年同期比) - リード端子

1Qの固定費増加の影響が残るが2Q以降挽回し、前年比増益

(百万円)

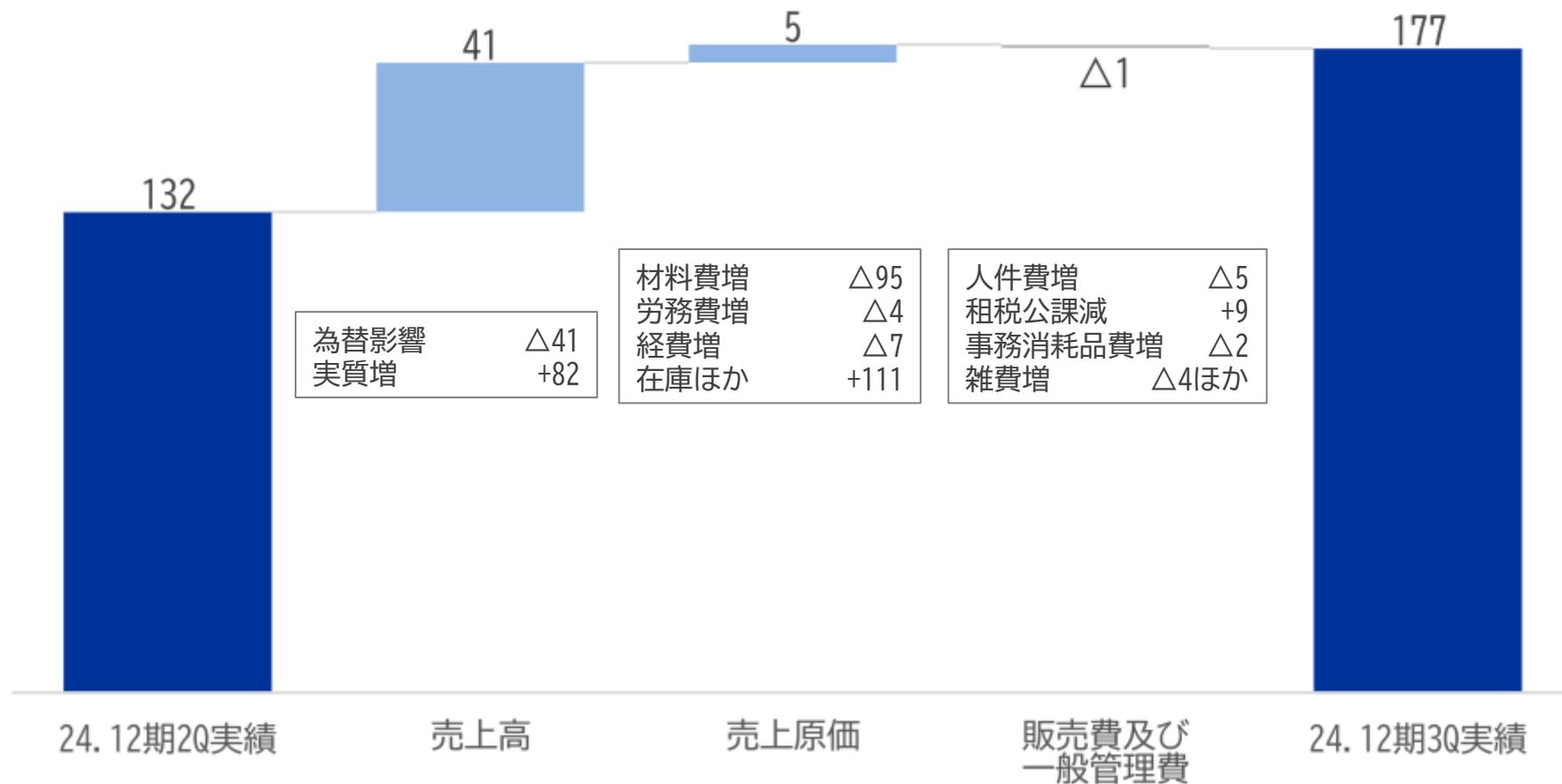


セグメント別

営業利益3Q(7~9月)の増減要因(前四半期比) - リード端子

売上増に加えて各工場での稼働状況が改善、在庫増加もあり前四半期比33.6%の増益

(百万円)

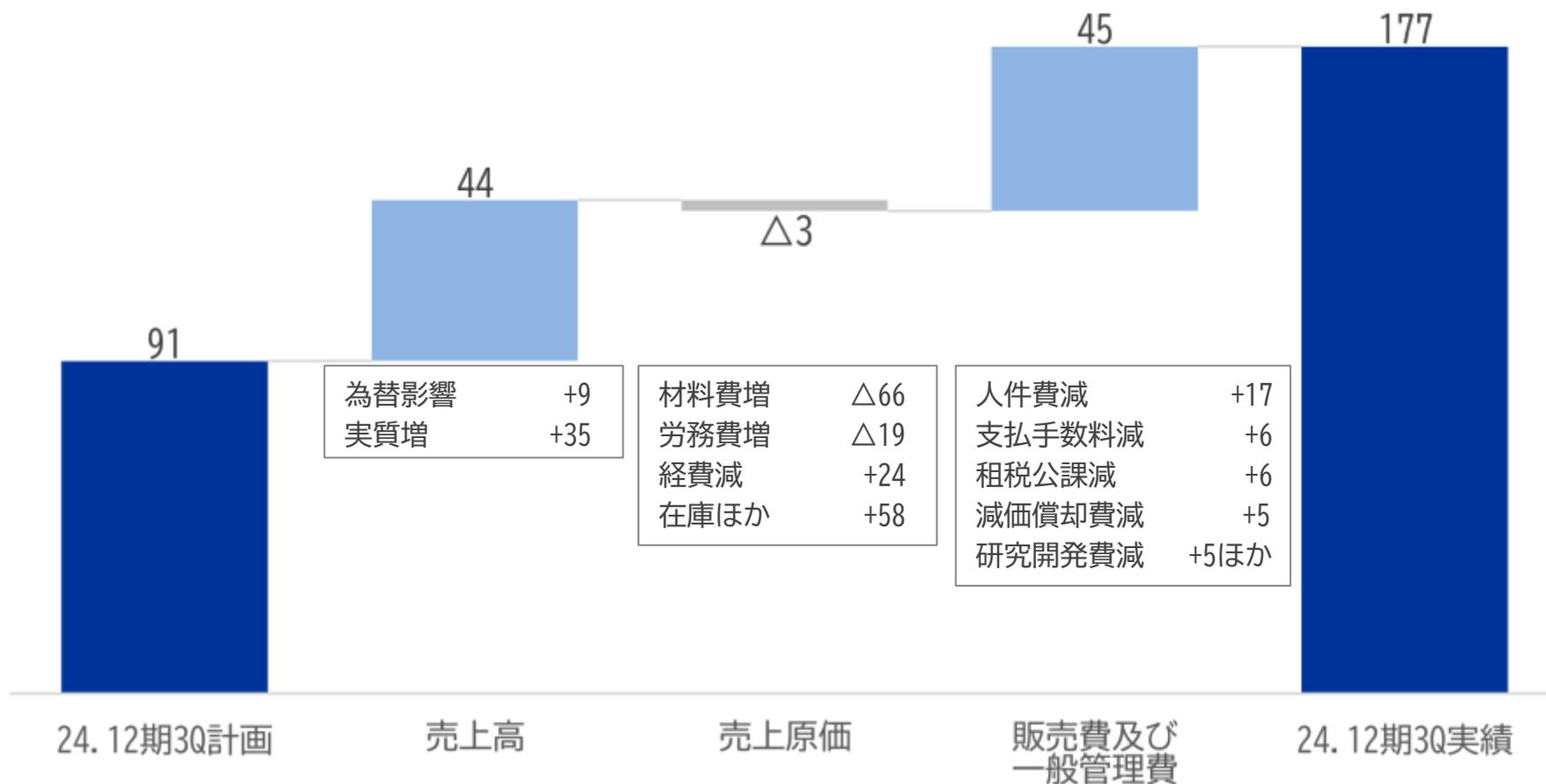


セグメント別

営業利益3Q(7~9月)の増減要因(計画比) - リード端子

売上が増加、材料増などのコストアップ要因を在庫増・経費削減等により吸収し、営業利益は売上増を上回る改善

(百万円)

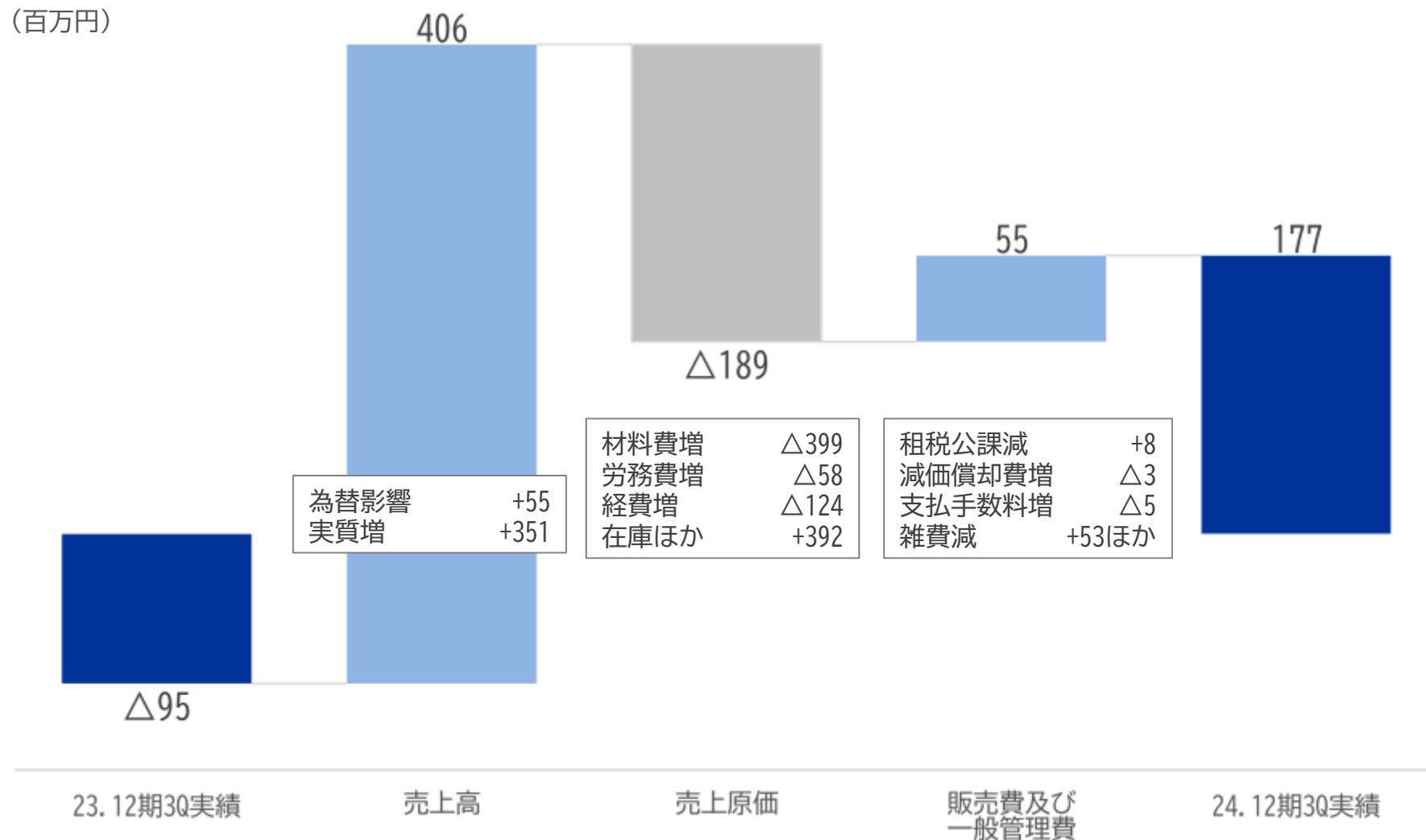


セグメント別

営業利益3Q(7~9月)の増減要因(前年同期比) - リード端子

売上は前年比22.7%増、昨年の蘇州工場での生産停止の影響がなくなり、黒字転換

(百万円)



セグメント別業績(3Q累計) - 光部品・デバイス

光アイソレータ及び光フィルタの受注が順調に回復、売上は増加

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期			2024年12月期				
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	前年同期比		1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	直前四半期比	
売上高	4,774	5,852	+1,078	+22.6%	1,484	2,136	2,231	+94	+4.4%
営業利益	2,233	2,878	+644	+28.8%	649	1,020	1,208	+188	+18.5%
営業利益率	46.8%	49.2%	+2.4pt	—	43.7%	47.7%	54.2%	+6.5pt	—

2024年12月期(3Q累計)の概況

● 業界・市場動向

- 海底ケーブルプロジェクトの延期等の影響による調整が一巡、売上は3Qまで回復傾向が続いた
- 光デバイス製品では、世界的な通信インフラの中長期的な強化の流れを背景としたプロジェクトが発表される等、先行き見通しが改善

● 外部環境の変化とその対応

- 海底ケーブル市場の多芯化ニーズに対応し、小型・複合製品、マルチコアファイバ用製品の開発が進捗
- マルチコアファイバ用製品では、光アイソレータ機能を内蔵したファンイン／ファンアウト製品を開発
- 高純度石英ガラス製品事業については、半導体製造関連メーカーでのサンプル引き合いが増加

市場環境・経営環境について - 光部品・デバイス事業

1. 市場環境、受注動向

	2024/12期予想（当初コメント）	2024/8時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
(1)市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 光アイソレータは堅調が続く見通し ➢ 光フィルタは年央から回復の見通し ➢ 後半は、長期視点の海底ケーブルプロジェクトによる回復を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 光アイソレータ、光フィルタともに売上はさらに上昇 ➢ 25年に向けての受注も増加の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 光アイソレータ、フィルタ共に、4Qは3Qまでの反動で売上は若干減少の見通し ➢ 来年度に向けて増産要求が増加。売上は来年後半以降さらに増加の見通し

2. 当社の経営環境

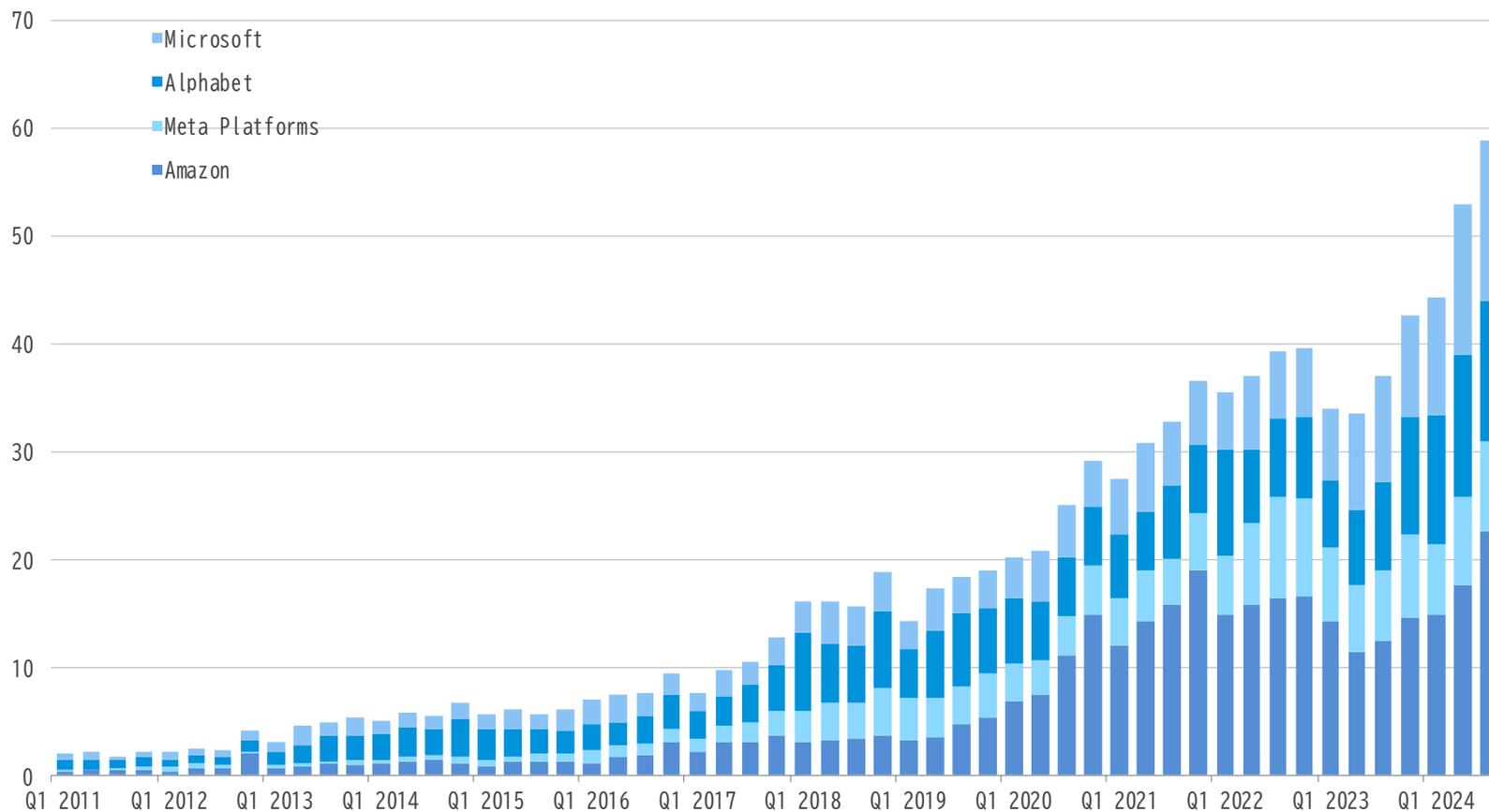
	2024/12期予想（当初コメント）	2024/8時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 複合デバイス新製品。24年後半に量産サンプル出荷。25年売上貢献に期待 ➢ 従来のシーズ開発から次世代技術やプラットフォーム開発に移行 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 複合デバイスの顧客での評価スタート ➢ 衛星通信用などに高信頼性光デバイスの拡販及び引き合いに対応 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今期中にサンプル出荷予定 ➢ 26年の売上増に向けてオンスケジュールで進行中 ➢ ワークスペース社に出資及び業務提携、衛星通信向け光デバイスの販路を模索
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スリランカでの半自動生産装置を増設、生産能力増強 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ スリランカ工場での半自動装置を増設、生産可能アイテムを拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 来年度に向けて増産体制を維持 ➢ 半自動生産装置納入は来期にズレ込み予定

2024年12月期(3Q)の事業環境

米国クラウド事業者の設備投資の増加が続く

米国クラウド事業者の設備投資

(十億ドル)



(出所：会社資料)

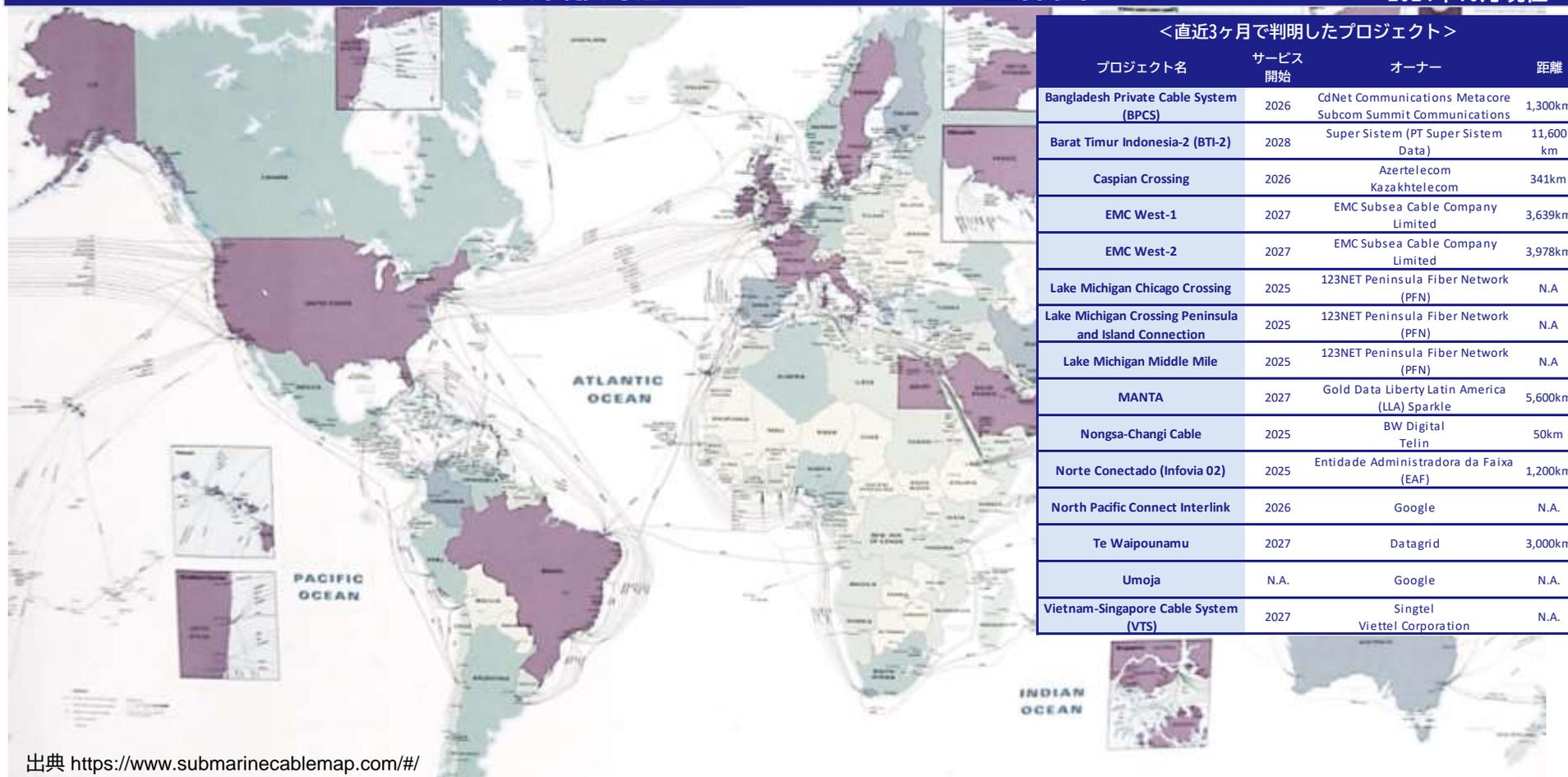
2024年12月期(3Q)の事業環境

新規敷設が続く海底ケーブルネットワーク

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図

2024年10月現在



※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

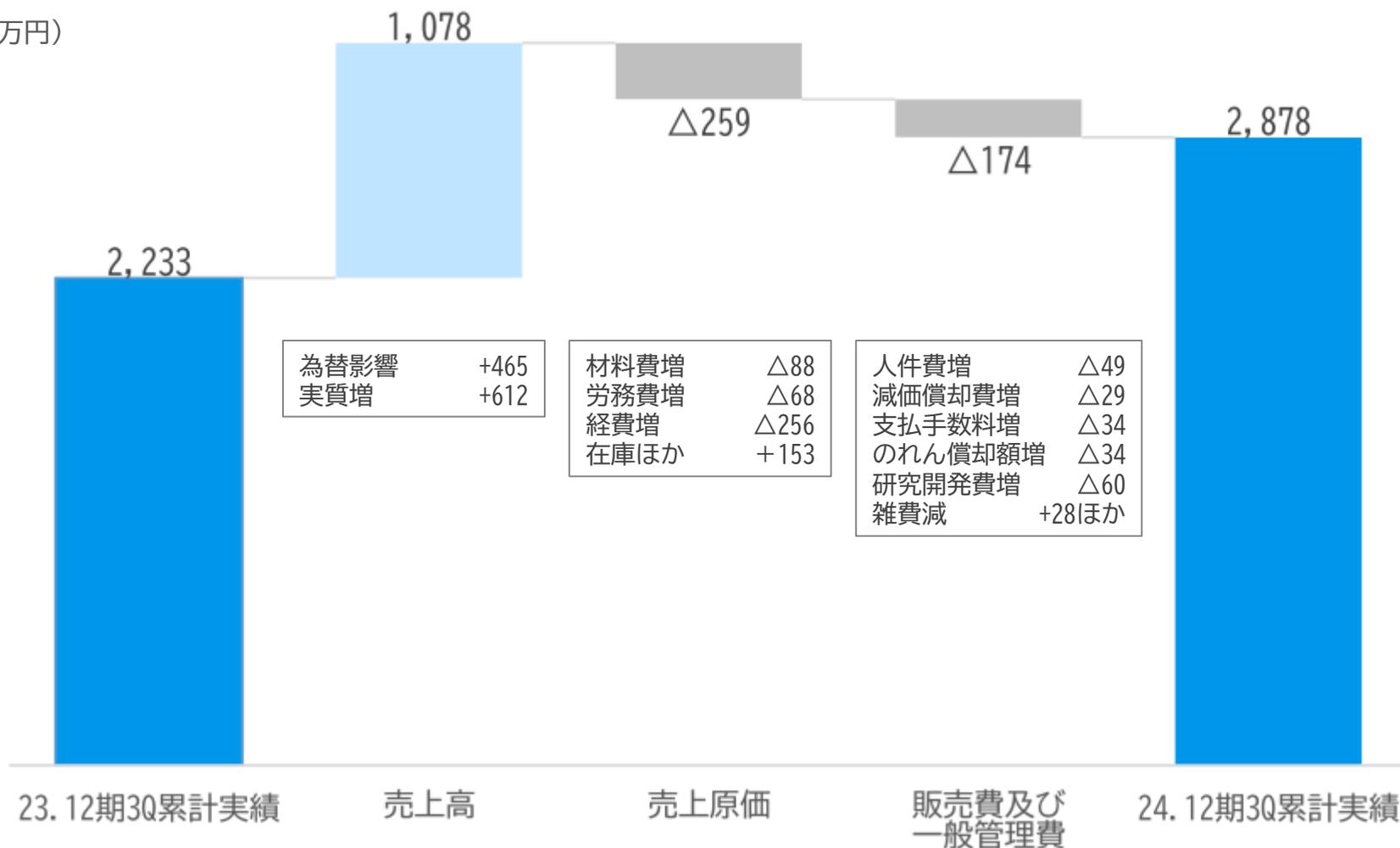
※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

セグメント別

営業利益(3Q累計)の増減要因(前年同期比) - 光部品・デバイス

売上の増加に伴い、営業利益は前年同期比28.8%増となった

(百万円)

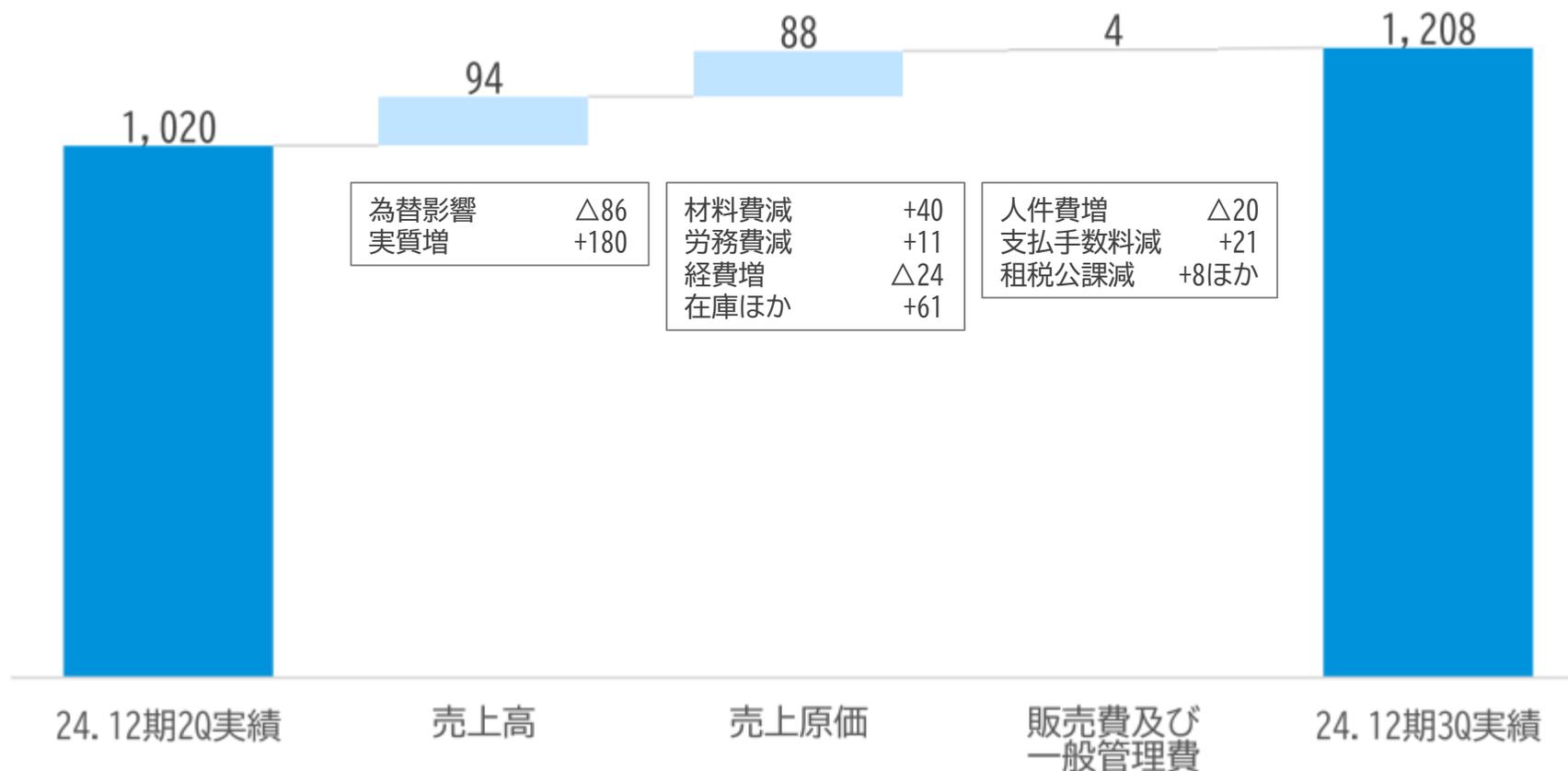


セグメント別

営業利益3Q(7~9月)の増減要因(前四半期比) - 光部品・デバイス

売上は高水準を維持、在庫増加もあり営業利益は18.4%増となった

(百万円)

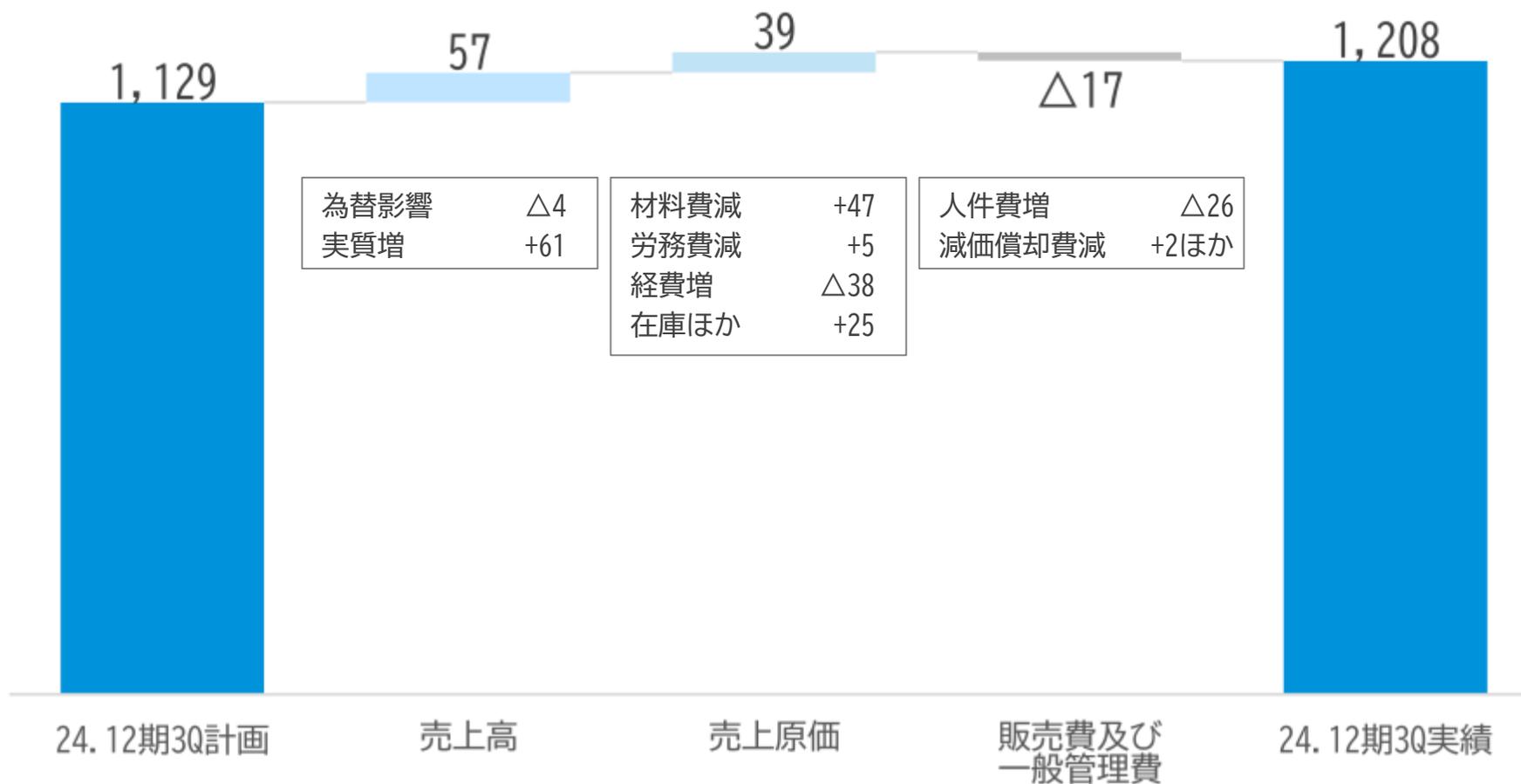


セグメント別

営業利益3Q(7~9月)の増減要因(計画比) - 光部品・デバイス

売上・営業利益ともに、計画を若干上回って着地

(百万円)

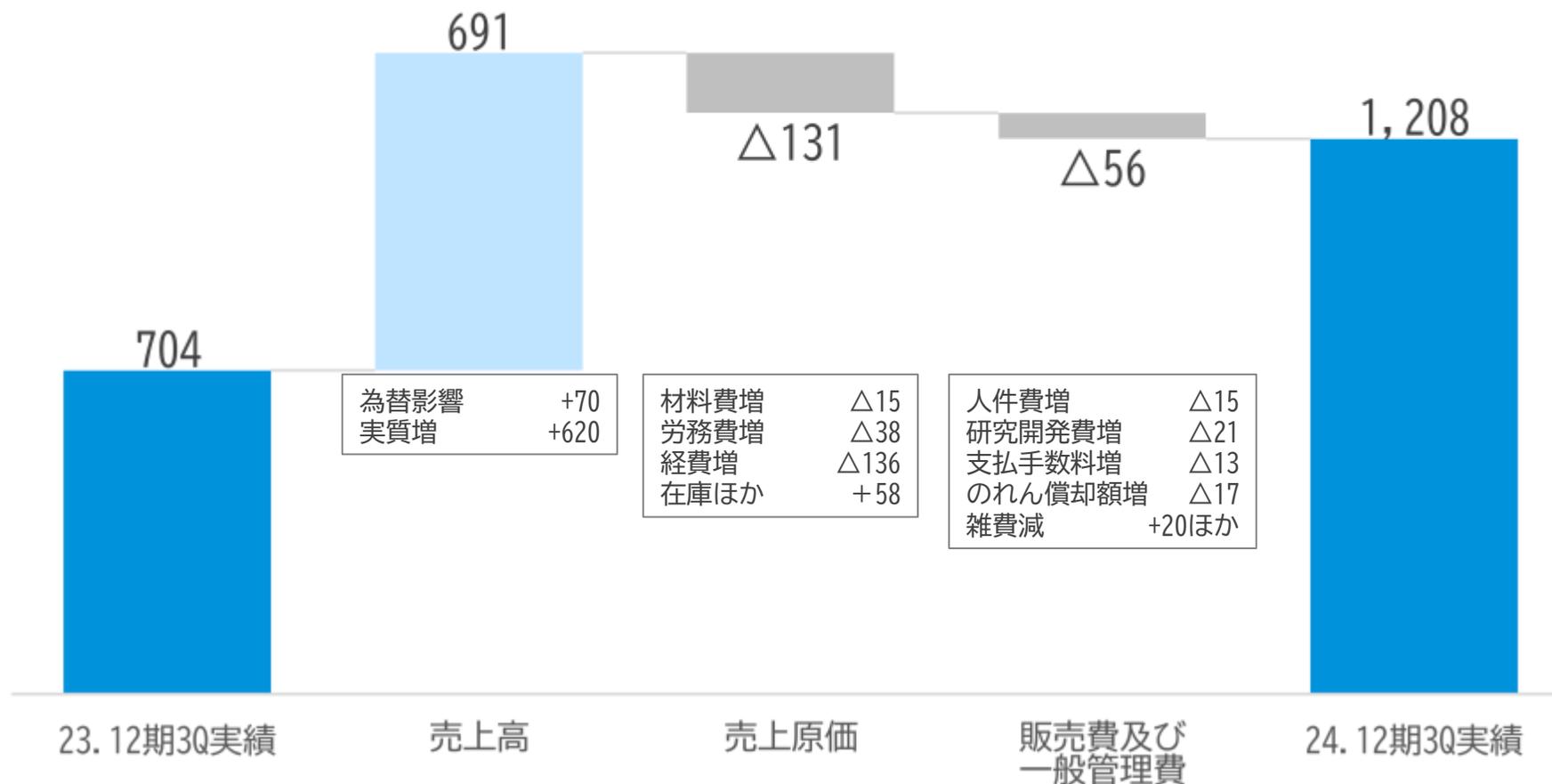


セグメント別

営業利益3Q(7~9月)の増減要因(前年同期比) - 光部品・デバイス

売上が前年比44.9%増と大幅に改善し、営業利益は前年同期比71.5%増となった

(百万円)



光部品・デバイス事業の見通し

2Q発表時の予想から変更なし

3Q実績は売上・利益とも計画比上振れ、4Q売上は3Q比若干減少の見通し

(単位：百万円)

	2023年12月期	2024年12月期 (計画)			
	実績	当初予想	修正予想 (8月)	修正予想の前期実績比	
売上高	6,071	6,667	7,920	+1,848	+30.4%
営業利益	2,767	2,986	3,825	+1,058	+38.2%
営業利益率	45.6%	44.8%	48.3%	+2.7pt	—

2024年12月期3Qの状況及び現時点での見通し

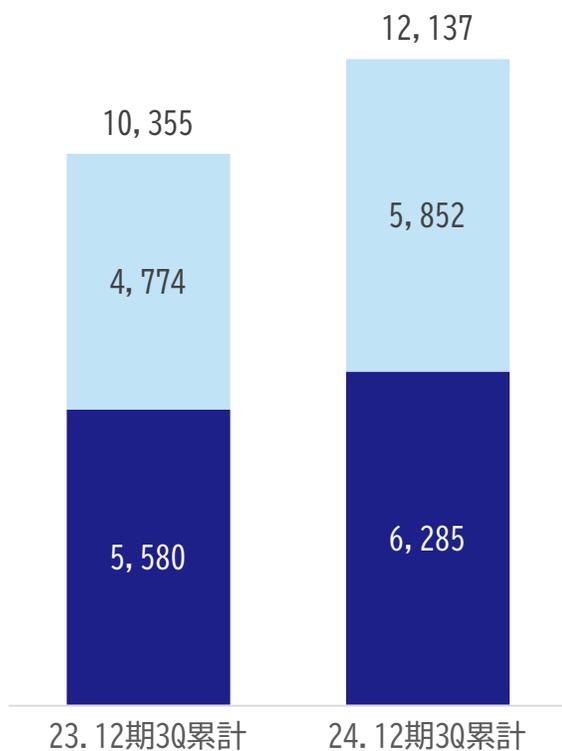
- 3Qの売上は、一部顧客にて前倒し発注があり想定以上の売上
- 2025年に向けての光アイソレータ、光フィルタのフォアキャストも堅調
- 4Qの売上見通しは、3Qまでの前倒発注の反動と一部ケーブルプロジェクトの生産計画遅延により一時的に悪化

III. 參考資料

セグメント別業績及び国内外売上高比率(3Q累計)

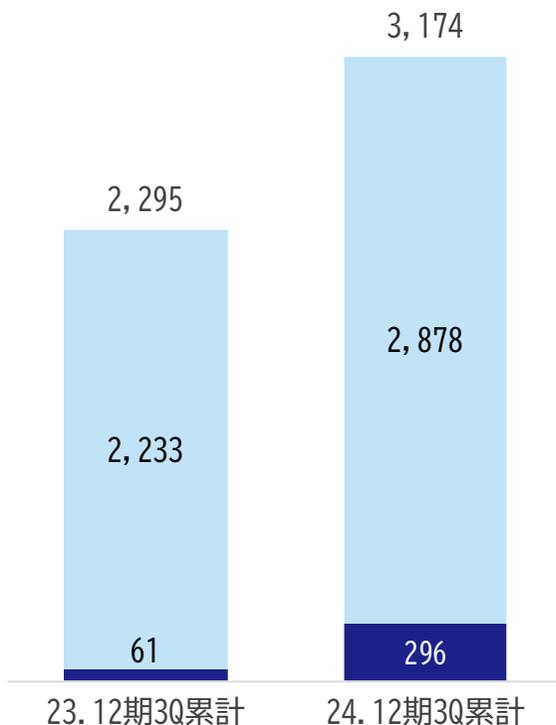
売上高 (百万円)

光部品・デバイス事業
リード端子事業



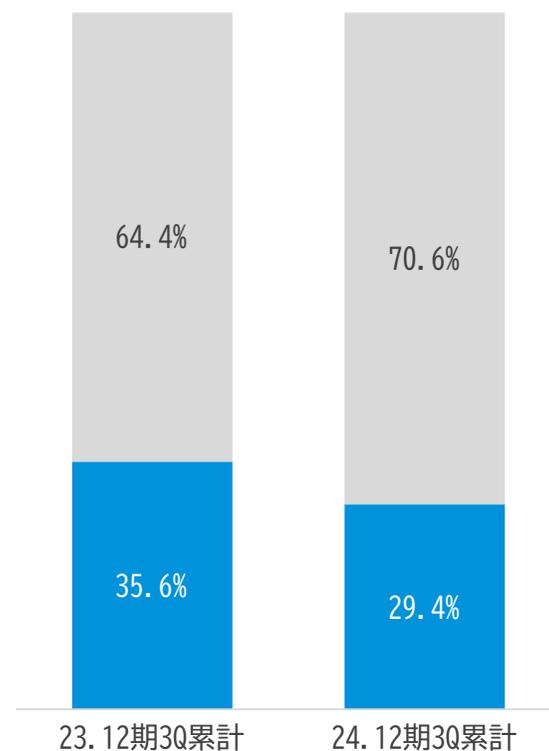
営業利益 (百万円)

光部品・デバイス事業
リード端子事業



国内外売上高比率 (%)

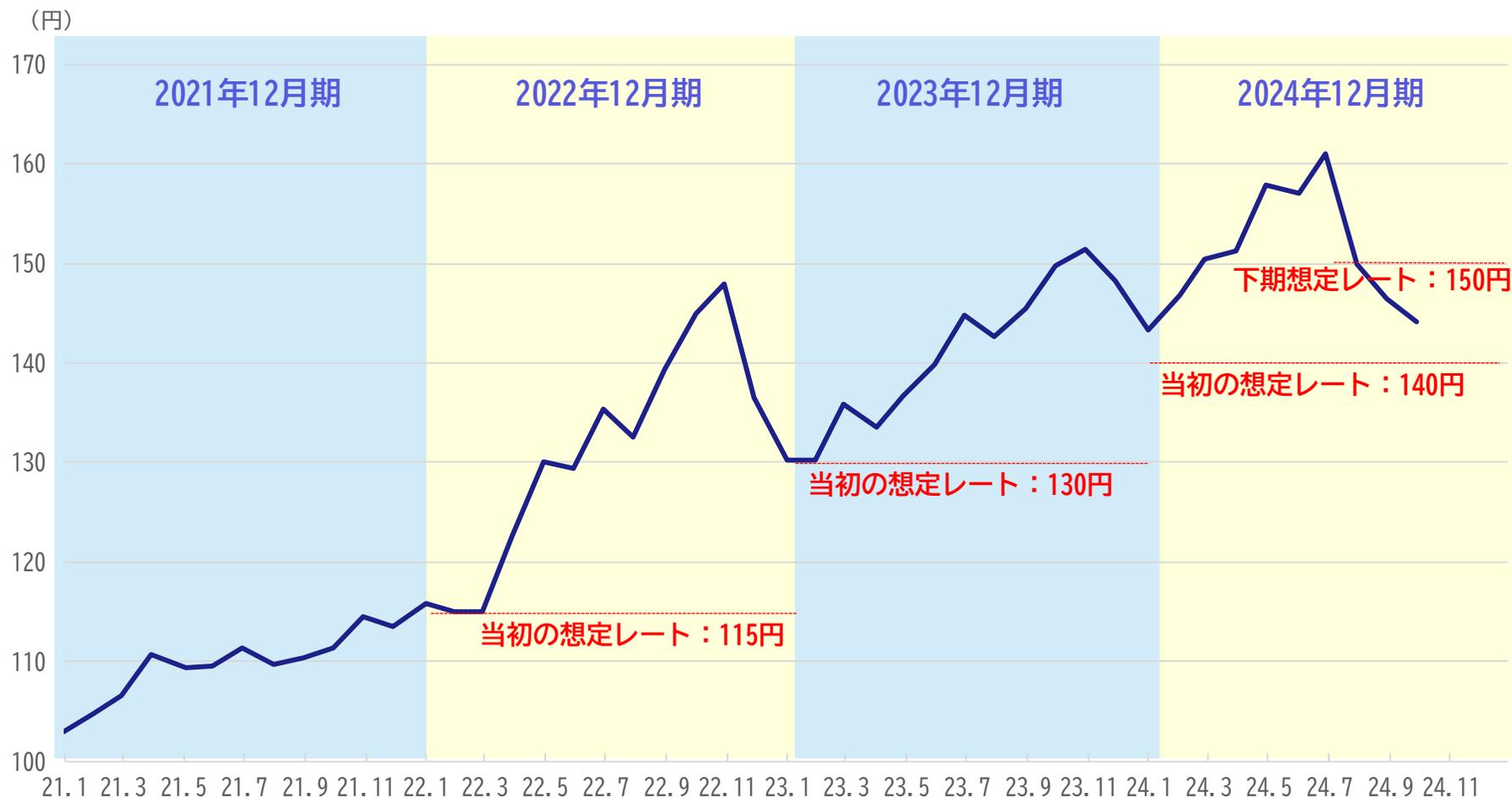
海外
日本



2024年12月期(3Q)の事業環境

1-9月の期中平均レートは151.45円/USD、7-9月は想定レート（150円）に対して若干の円高

USD/JPYトレンドグラフ



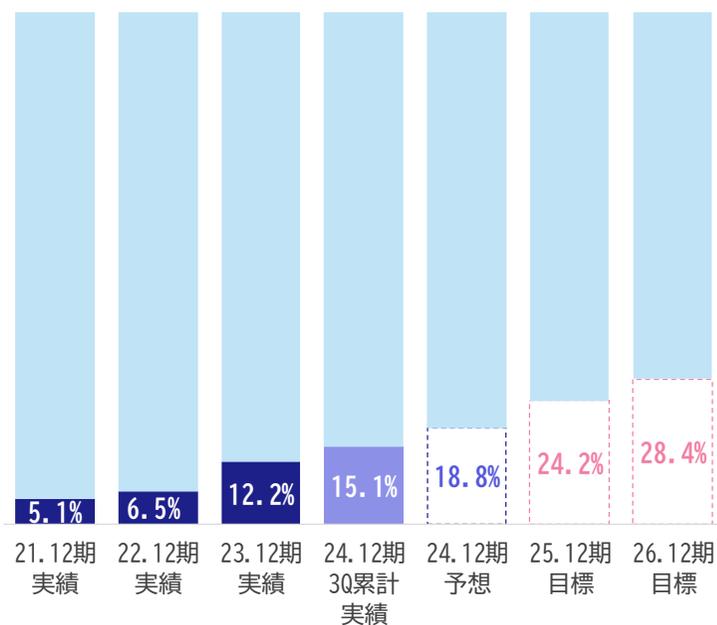
市場開拓による事業規模の拡大

新商品の売上比率の改善、自動車市場向け販売を強化

新商品の売上比率

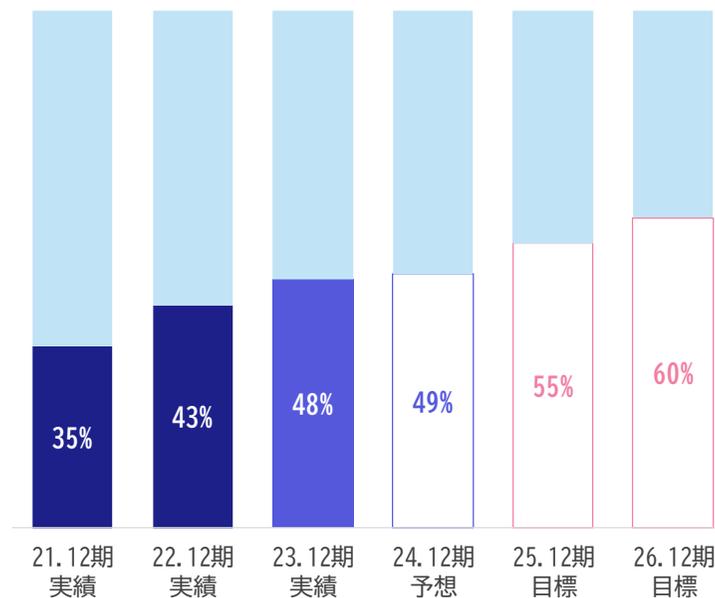


- ・新商品売上比率上昇は伸び悩み
- ・EDLC向けは大幅売上増



自動車市場向け売上比率（推定値）

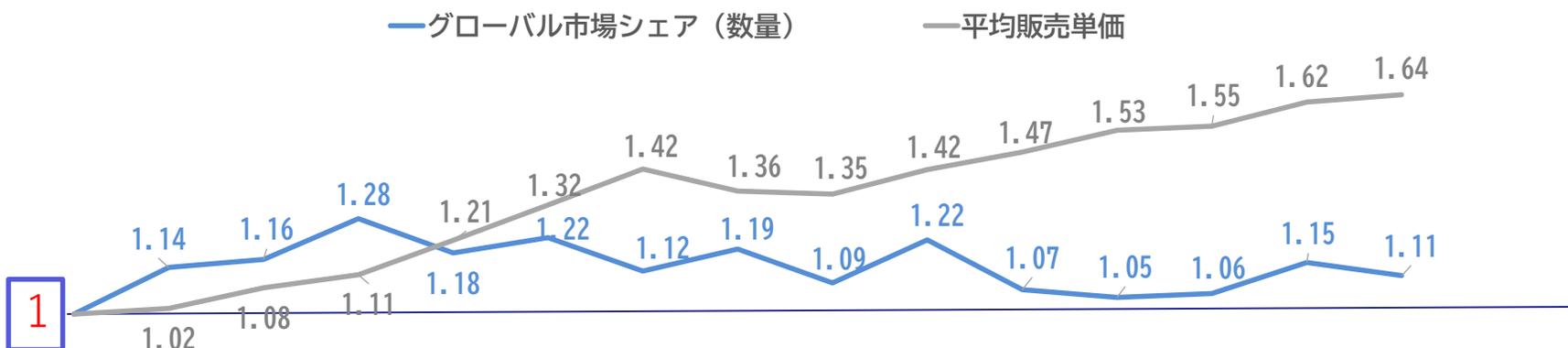
- ・車載市場向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場での拡販を進める



販売単価と市場シェアの動向

平均販売単価は上昇、市場シェアは変化なし

平均販売単価と市場シェア（数量ベース）の推移（2021年1Qを1とした推移）



平均販売単価上昇要因

- ①円安傾向による円ベースでの価格上昇
- ②材料価格高騰に伴う価格スライド
- ③不採算製品の価格是正

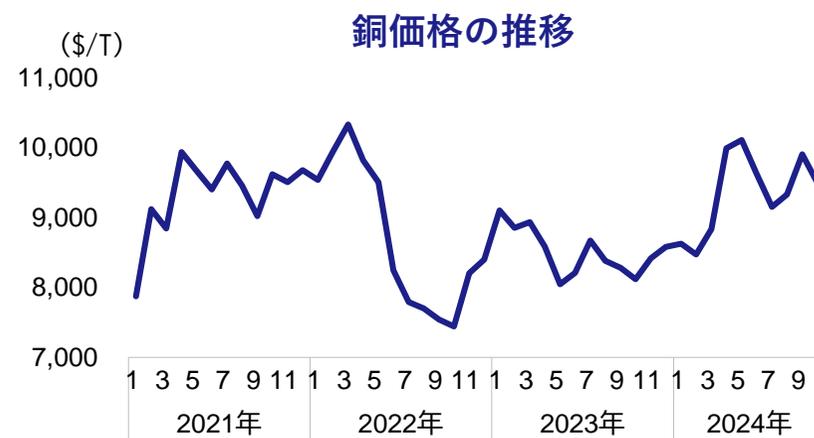
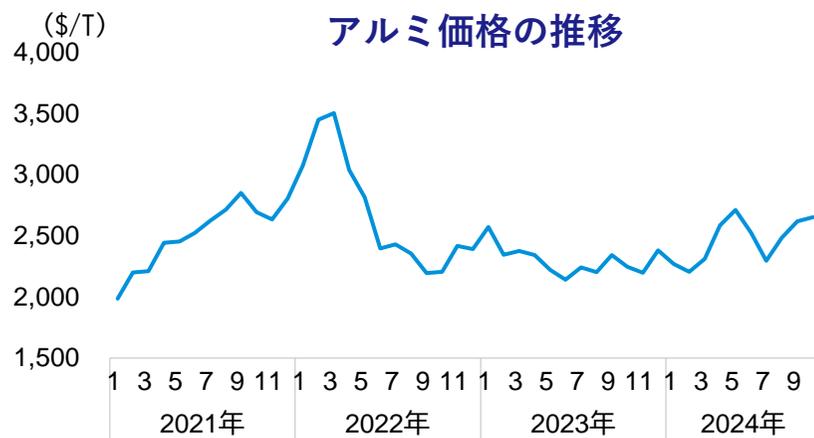
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
2021				2022				2023				2024		

グローバル市場シェアは、当社推定値

外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は2022年下落トレンドから反転、その後、銅・錫・アルミは一進一退

非鉄金属相場（LME）の推移

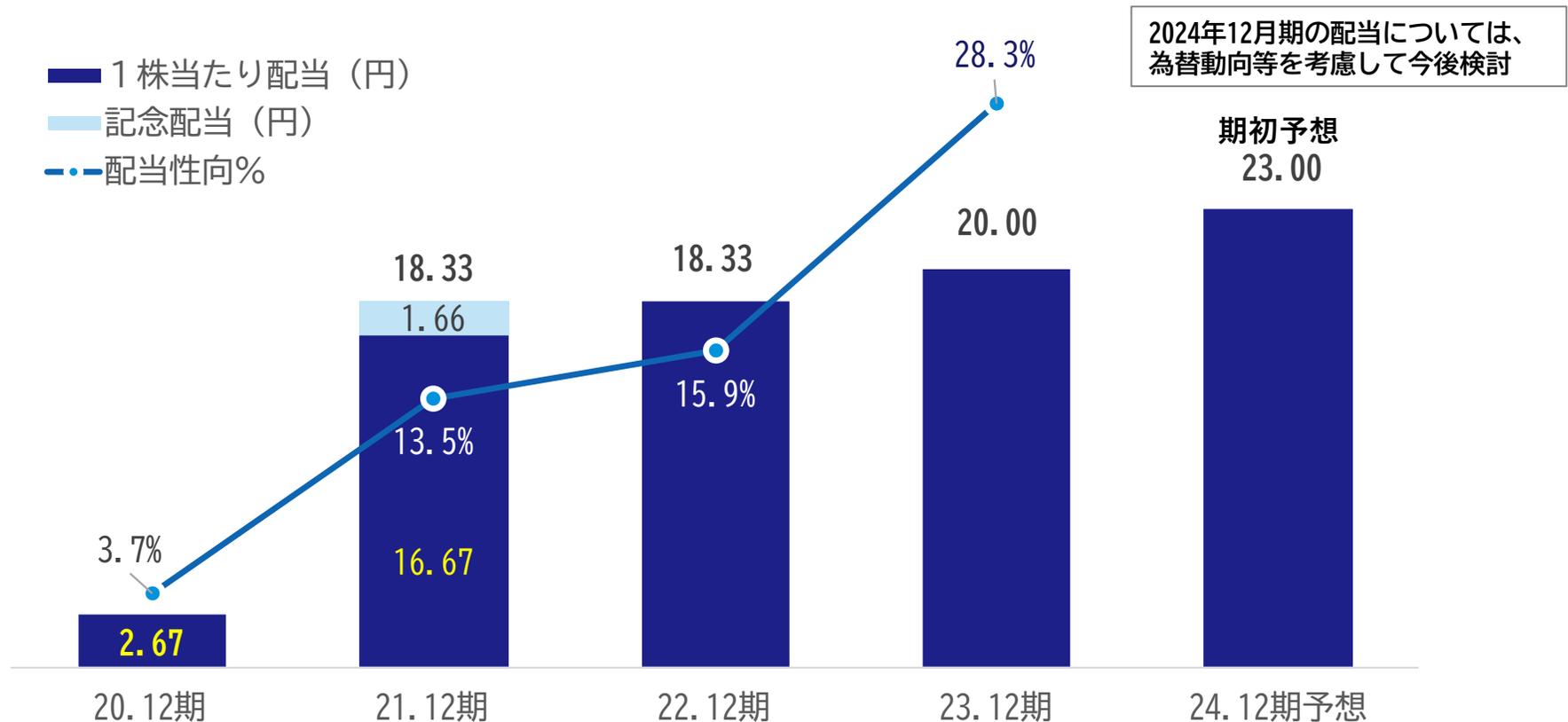


株主還元の推移

<株主還元方針>

- ・持続的な成長に向け、設備投資・研究開発投資・M&Aなどに積極的に資金を投入するとともに、当面、一定程度の内部留保も行ない財務体質の強化をはかる
- ・株主還元については中長期的に「連結配当性向目標30%、D0E3%以上」とし、株主還元の充実をはかる

配当金／配当性向の推移



※2023年12月期以前の配当については、2024年4月の株式分割後の金額に換算しています

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217